

保健師ルポ



知覧保健センター職員(筆者前列右端)

地域住民とともに 健康づくりに取り組む

南九州市 健康増進課 健康推進係 主任主査 桑水流 智子



豊かな自然や歴史、人との共生で
健やかに暮らせるまちをめざして

南九州市は、目の前に東シナ海がひろがり、「薩摩富士」とも呼ばれる開聞岳や三島、遠く屋久島の雄姿なども見ることが出来る薩摩半島の南部に位置し、旧額賀町、旧知覧町、旧川辺町が合併し、平成19年12月に誕生しました。

豊かな自然と温暖な気候に支えられ、日本一の生産量と質を誇る「茶」や「さつまいも」をはじめ、さまざまな農畜産物を生産する全国有数の食料供給基地を形成しています。また、知覧武家屋敷や知覧特攻平和会館、川辺仏壇など語り継ぎ受け継いでいく文化財も多くあります。

「健康づくりは健診から始まる」を合言葉に！

南九州市は人口3万4769人(令和元年12月末)、高齢化率39.4%で、国民健康保険被保険者は28.2%を占めています。健康増進課は健康推進係と保険係、保健予防係の3係からなり、健康推進係には係長、保健師8人、管理栄養士2人、看護師(嘱託職員)8人が配属されています。特定健診・がん検診の希望意向調査を保健予防係で実施し、それを元に複合健



特攻勇士の像



開聞岳と茶畑

診を3係で協力して実施しています。

特定健診は、がん検診と組み合わせた複合健診（集団）を7月と12月、市内医療機関で行う個別健診を6～8月と11～12月に実施しています。平成30年度からは12月の複合健診を夜間に実施したり、30歳代の国保被保険者を対象とした30歳代健診を同時実施したり、試行錯誤しながら受診率向上に取り組んでいます。「健康づくりは健診から始まる」を合言葉にした受診勧奨は、行政だけでなく280名の保健推進員にも協力をもらい、各自治公民館等への受診勧奨ポスターの掲示や自治会総会において市の健診状況や国保財政状況、自治会毎の受診率状況の報告をすることで周知いただいています。また、健診受診率が前年度より向上した地区には健康づくり講演会において表彰を行うことで、地域ぐ



特定健診受診勧奨ポスター

脳血管疾患の標準化死亡比が高く、高血圧高値の未治療率が県平均より高いことから、特定健診後の精密検査受診勧奨対策に取り組んでいます。受診勧奨通知6か月後も未受診の方には家庭訪問で健診

重症化予防の取り組み

るみでの健康づくりを推進しています。



市民健康づくり講演会の様子

南九州市は、平成29年度の一人当たり医療費は国保では県内11位、後期高齢者医療では県内2位

という状況で、特に

結果の説明、受診勧奨を行っています。平成30年度の医療機関受診率が57%、内服開始率が32%であり、今後も継続して受診勧奨を行い治療開始した方が治療中断とならないように取り組んでいます。

糖尿病重症化予防対策としては、昨年度から市内医療機関従事者と行政スタッフを対象にした重症化予防研修会（糖尿病専門医の講演会と医療機関従事者との意見交換）を開催しています。南九州市民の健康状態や市の取り組みをもっと知ってもらいたい、医療機関の管理栄養士や看護師は患者さんの状況をどのように思っているのか、気になっている患者さんについて保健センターに繋いでもらいたいとの



重症化予防研修会の様子

地域に寄り添いながら

思いでの開催でした。医療機関でも「気になる患者さんはいらぬがゆくり話をする時間がもてない」「糖尿病が悪化して合併症を発症してから受診するケースがいた」など、患者さんの病状が気になりながらも地域で生活する住民に対して医療機関だけでは解決できない問題も、市との連携の必要性を感じていることを確認できました。健康づくりの主役はもちろん住民ですが、より健康で長生きするための効果的な保健事業を推進していくには医療機関と行政が同じ目的を持ち連携し取り組んでいくことが重要であると再認識しました。

現在、特定健診後の結果説明やコントロール不良者訪問の際には、受診者それぞれの身体の中でおこっている状況を理解してもらい、行動変容につなげてもらえるように、経年健診結果表を用いて個別に説明しています。対象者の思いや生活状況を把握し、健診結果とのつながりを分かりやすく住民に説明するスキルはまだですが、住民と関わる中から学ばせてもらっているという気持ちで住民一人ひとりと向き合っていきたいと思いつつ、同取り組んでいます。